

第5回 学校運営協議会 議事録

日時 : 令和6年2月14日(水) 14時30分~16時

場所 : 明保中学校 ICT教室

出席者 : 会長 妹尾 久雄
副会長 早乙女 勇一
委員 鈴木 綾
委員 友田 弓子
委員 吉村 真理子
委員 澤井 稔 (校長)
委員 矢崎 慶 (副校長)
海老塚京子 (教員)
小川 壮司 (教員)

1 あいさつ

・校長より

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今年度最後の学校運営協議会となり、1年間ご協力いただきましてありがとうございます。

学校評価も、保護者の方からいただいたいろいろなご意見を教職員全員でまとめました。保護者の皆様方にも後日配布させていただきたいと思います。パーセンテージが出ていますが良くもあり、課題もありというところで、そこをしっかりと見つめながら来年度につなげていきたいと思います。

今後の大きな学校行事としては、合唱コンクール、卒業式、1年生は総合的な学習の時間の探求の発表もごございます。お忙しいとは思いますが、お時間ありましたら是非ご来校いただきまして、生徒の様子を見ていただけたらと思います。本日は今年度最後の会となります。貴重なご意見賜りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

2 各委員より

学校アンケートを踏まえた上での今年度の振り返り・感想

委員：部活動に携わらせていただいたが、非常に難しい。自分が伝えてきた意見が出ていないのは、逆に保護者の方と話す機会が多いからここには出てこないのかなという考え方もある。4月から約1年経って、最近になって保護者の方の意見を聞く機会があり、最初の頃とは大分違ってきたが、地域移行の難しさを常に感じている。今後もお力になれるようにやっていきたい。

委員：今回の保護者の方のアンケートは大体、良いことは良かったで終わってしまうため、悪いところや気になるところについては、先生方も授業、部活等お忙しいと思うが、できることは学校としてやっていただきたいと思う。

委員：音楽部の楽器のことで、使っていない楽器をお譲りはできないが、お貸しすることはできるので相談してくださいという方がいらっしゃる。新しい楽器が手に入れば一番良いが難しい。学校ごとで貸し借りしたり、閉校になった学校の楽器があれば活用したりするなど、あるものをお互いに融通しあうことはできないか。

東小の育成会としては、明保中学校の生徒さんと一緒にいろいろなことに取り組ませていただいた。来年度も是非同じような活動を続けたい。

学校評価を記入していて、全てを先生方にお任せするというのではなく、地域も一緒に生徒さんと関わる場が増えてほしいと思った。部活に関しても簡単ではない。一筋縄ではいかなくて、すぐに変わることはないと思いながら、方向性が変わってきていると感じた1年だった。

委員：まだまだ明保中学校の行事や内部の方で関わりはないが、今回1年生と2年生の調べ学習を掲示させてもらった。生徒に掲示の仕方や場所をアドバイスすると、素直にきちんとやってくれて、清々しく気持ちよく思った。先生方の子どもたちに対しての接し方、指導の仕方が行き届いていると感じた。

アンケートで気になった部分は、割合的に低いのは学習面の部分かと感じた。いただいた意見は貴重だと思うが、意見がない方に対して学校として今後どのようなご案内があるのか気になったが、丁寧にお答えして、真摯に対応している印象を受けた。

委員：1年間ありがとうございました。アンケートを見させていただいて、学習面に対して生活面は、保護者の方が「楽しく過ごせていると思う」という意見が多く、嬉しく思った。学校生活に悩んでいる生徒の保護者が先生に相談して、その後気持ちよく学校に通える子がいたので、先生方が支えてくださっているからだと感じた。保護者代表として保護者の声をそのまま持って来られる方に入ってもらえるのが一番良いと感じる。子どもたちの部活が一番気になる。保護者の方からの声も聞こえてくるので、早く落ち着いてほしい。

副校長：部活動の地域移行、社会に開かれた教育課程の中で西東京ふるさと探究学習とさまざまな形で発信地や話題の方向性をケアするのはこの場であってほしいということをして市の全国コミュニティスクールで言われているが、市内だけでなく、地域によってかなり温度差がある。

教師と保護者の会や部活動の地域移行もまとまってきたと思うと形になる結果を出す寸前で戻る。今は保護者と生徒だか、生徒が卒業したら保護者は地域

の人になる。生徒も地域住民や地域の人材として協力できる強力な助っ人になってくれる存在である。そのパイプがたくさんあればあるほどその地域が良い地域になると思う。現在、教員が卒業生のネットワークを作っている。すぐに動ける大学生に地域の人材になっていただいて学校を支えてくれるような温かい戦力になってくれると思うが、長期的なことに対して教師と保護者の会に対して納得されない方もいる。

委員：教師と保護者の会をやめた方が良いという人がいても「本当にやめてよいか」と聞くとやめた方が良いという人は少ないと思う。

副校長：1年でゼロになった学校もあるが、ゼロになってしまうと、もう一度耕すのは大変である。5年先、10年先を見た時になくしてしまうリスクのほうが高いと思う。うまく伝わっている人、好意的に捉えている人と批判的に捉えている人がいて、その中で学校運営や地域学校協働活動をやっていくのは難しい。来年度の部活動の地域移行に関しても、教員の異動もあるため上手く配置していかないと、保護者の方や子どもたちの活動の場が狭まっていくという問題も出てくる。良いこともたくさんやっている先生もいる。会の中でいろいろな方向性を示して行って良い形にもっていきたい。

校長：保護者の方からの意見があるが、なかなか表に出てこない見えない考えがあり、想像しながら考えている。担任の先生が保護者の方と面談等でのやり取りを我々が集約して明保中に何が必要か、子どもたちに必要なものは何か分析した上で学校に活かせるものを生み出していくことが必要だと思っている。

教員：1年間お世話になりました。地域の方とお会いできて、地域の様子が伺えていろいろな方に学校を支えていただいているのが伝わってきた。それを地域に返せるような学校でありたいという気持ちもある。来年度以降も明保中のためによりしくお願いします。

教員：1年間お世話になりました。特に2年生は探究のところでかなり地域の方々と活動できた。結果、ほくっとまつり、冬まつり、どんど焼きなど授業ではないところで率先してボランティアに参加してくれる生徒がすごく増えたというのが感じられているので、この流れがよく回っていくと良いと思う。教務的な立場からは、アンケートの授業面については教科的な偏りや、教室に入りにくいお子さんから授業の話が出てこないのが、力が付いているか分からないという側面からの3番、4番の回答があるかと思う。保護者アンケートとは別に生徒向けに各教科の授業アンケートも行っているので、来年度以降改善したい。

委員：こちらが思っているより伝わっていないことがすごく多いと日ごろから感じている。児童センターはイベント、館内の環境を私たちなりに工夫してやっ

ているが、良いところがあまり伝わってなくて、そうでないところがクローズアップされているそのギャップがあるのが、学校側も同じかと感じた。

教員：来年度は、保護者との情報交換と生徒と1対1での担任と話をする面談の時間を大幅に増やしているなので、より生徒とも保護者の方ともたくさんお話できる機会も増える。具体的な意見や要望が学校に伝わり、教員や学校からも保護者の方に伝わりやすくしていきたい。

委員：いろいろな問題が多くある。自分が中学生の時は何も考えていなくて、ただ通っていたが、保護者も共働きが増えて大変な時代だと感じる。

(3) 学校より

- ・令和6年度学校経営方針（案）の承認（別紙参照）

本協議会は、この学校経営方針について全員一致で承認する。

来年度以降も委員の皆様にご協力いただきたいと思いますのでよろしく願いします。